

6. 対策工の検討結果

大滝地区の貯水に対応した前面すべりの対策工の基本的な方針は、押え盛土工法を主工法とし、補助工法として抑止杭工法を採用することを提案した。また迫地区の下部すべりに対しては、押え盛土工法を主工法とし、補助工法として抑止工および排土工を検討することを提案した。なお迫地区の下部すべりに対する補助工法の検討にあたっては、上部すべりへの影響を考慮する必要がある。

対策工が必要と判断された大滝地区および、迫地区の対策工の基本方針と検討結果を表 6.1 に示す。なお、計画安全率は表 6.2、表 6.3 をもとに決定した。

表 6.1 大滝地区および迫地区の対策工の基本方針と検討結果

地区	ブロック	地すべり土塊量(m ³)	計画安全率P.Fs	工法
大滝	前面すべり	約100万	1.15	押え盛土 + 抑止杭工
迫	下部すべり	約30万	1.15	押え盛土 + 抑止工, 排土工

出典：「第3回大滝ダム貯水池斜面再評価委員会資料」から抜粋

表 6.2 地すべり規模の区分

内容 ランク	区分内容
小	3万m ³ 未満
中	3万m ³ 以上 40万m ³ 未満
大	40万m ³ 以上 200万m ³ 未満
超大	200万m ³ 以上

「貯水池周辺の地すべり調査と対策」P148から抜粋

凡例	
	大滝地区
	迫地区

表 6.3 地すべり対策工の計画安全率

(a)ダム施設にかかわる地すべり

規模 重要度	超大	大	中	小
大	1.10~1.15	1.15~1.20		

(b)貯水池周辺の施設にかかわる地すべり

規模 重要度	超大	大	中	小
大	1.10~1.15	1.10~1.20	1.15~1.20	
中	1.05~1.15	1.10~1.15	1.10~1.20	
小	1.05~1.10		1.05~1.15	

(c)その他の貯水池斜面の地すべり

規模 重要度	超大	大	中	小
大	1.01~1.10	1.05~1.10	1.05~1.15	
中	1.01~1.05	1.01~1.10	1.05~1.10	
小	1.01~1.05			

「貯水池周辺の地すべり調査と対策」P149から抜粋